

みやぎ
地域防災の
アイデア集

11

活動のレベルアップ

1 防災活動計画の取りまとめと活動の発展に向けて

事例11-1-1 【東松島市】ICSに準拠した災害規模に応じた体制

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

- 自主防災組織の活動が充実してきたら、活動内容を取りまとめて防災活動計画書にしましょう。地域住民に共有して周知を図るとともに、自主防災組織メンバーの交替に伴う引き継ぎ資料としても有効です。
- 防災活動計画の共有を通じて、周辺地域や行政機関、民間企業等との情報共有と連携を進め、活動の発展に向けて更なる関係機関の巻き込みや体制の見直しを進めましょう。

進め方とポイント

①活動を取りまとめて防災活動計画を作成

- 自主防災組織の設立時に自主防災計画をまとめた場合は、設立後の活動内容や検討結果を盛り込んで更新します。
- 防災活動計画は、地域住民に共有したい最低限のルールのみをまとめた概要版と、詳細な手順をまとめた本文の2種類に分けると、住民への周知や自主防災組織の活動継承にも活用できて効果的です。

②地区防災計画(素案)として市町村に提案

- まとめた防災活動計画は、地域防災活動との整合性などについて事前に十分に調整の上、地区防災計画(素案)①(下記参照)として市町村に提案することができます。市町村は、提案を受けた地区防災計画(素案)を防災会議に諮り、審査のうえ地域防災計画に位置付けます。

③活動の発展に向けて(インシデントコマンドシステム等)

- 防災活動計画を関係機関と共有し、より詳細まで踏み込んだ連携・調整を進めましょう。
- インシデントコマンドシステム(ICS)①(下記参照)に基づく体制の見直しや、災害シナリオに基づき具体的な対応行動を確認するシミュレーション訓練などを取り入れ、より実践的な災害対応力の向上を図りましょう。

ワンポイント解説

①地区防災計画とは?

- 地区防災計画は、東日本大震災の教訓を踏まえて、平成25年の災害対策基本法の改正において、地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から創設された制度であり、地区住民等が地域コミュニティの共助力向上のために、自発的に行う防災活動に関する計画です。
- 地区住民等が作成した地区防災計画(素案)は、市町村に提案し、地域防災計画に位置付けることができます。これにより、共助と公助の連携を図ることが狙いです。
<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/>



①インシデントコマンドシステム(ICS)とは?

- アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁(FEMA)が開発した、標準化された緊急事態対応マネジメントシステムです。
<https://resilience-japan.org/参考ファイル>



事例 11 1 1 ICSに準拠した災害規模に応じた体制

東松島市 上河戸若葉自主防災会

- 災害が発生したときの自主防災組織や町内会における体制・各住民の「役割」は、情報班、炊き出し班、救護班などのチーム分けや、班長・班員などの職位が合わせて事前に割り振られていることが多いものの、災害が発生するときは、「すべての住民が万全な状態でそろっている」とは限らず、被災の状況もあいまって「事前に決められた役割の人が全員参集できない・活動できない」状況は十分に発生し得る。
- 上河戸若葉自主防災会は、「災害時に必要な役割」だけを事前に決めておいて、災害の規模や参集の状況によって役割を付与する組織体制を設計した。これは、実質的に欧米で標準的な災害対応システムになっているICS(インシデント・コマンド・システム、略称:アイシーエス)で採用されている考え方の一つである。
- 災害は発生したときにある「限られた資源(ここでは人材)」を効果的に活用するために、柔軟な組織体制をとれるようにした仕組みである。また、「災害時にどの役割が課せられるかわからない」という状況は、「どの役割でもできるようにならないといけない」ということになり、住民がすべての役割を一通り事前に訓練で経験しておく必要がある。
- このような体制をとることは、人材育成、住民の災害対応能力の底上げという機能も有している。

進め方とポイント

現状の組織体制に関するブレインストーミング(主に課題の洗い出し)



アドバイザーからのICSに関するレクチャー・勉強会

ICSは、どのような災害・イベントでも適用できること、5つの機能(指揮調整、情報作戦、資源管理、庶務・財務、事案処理)からなること、災害の規模に応じて体制を変更すること、など。



勉強会で得た知識に基づき、新しい組織体制を役割(機能)だけで改めて設計

会長ほか数名の役員に事前役割を付与するにとどめる



設計した組織案についてアドバイザーからの助言・修正

この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 何度か小規模の災害を経験することにより、組織体制について「絵に書いた餅」の部分が明らかになってきた。
- 議論や相談の中から、何が問題・課題なのかに気づき、そこにアドバイザーからの一定の知識を得たことで、新たな組織体制の検討を急速に進めることができた。
- 旧組織図を11-3に、新組織図を11-4に示す。
- 今回は、ICSに準拠した組織体制の改訂となったが、大事なことは「何が問題・課題か」「それを解決するためのヒント」を組み合わせることである。

01

02

03

04

05

06

07

08

09

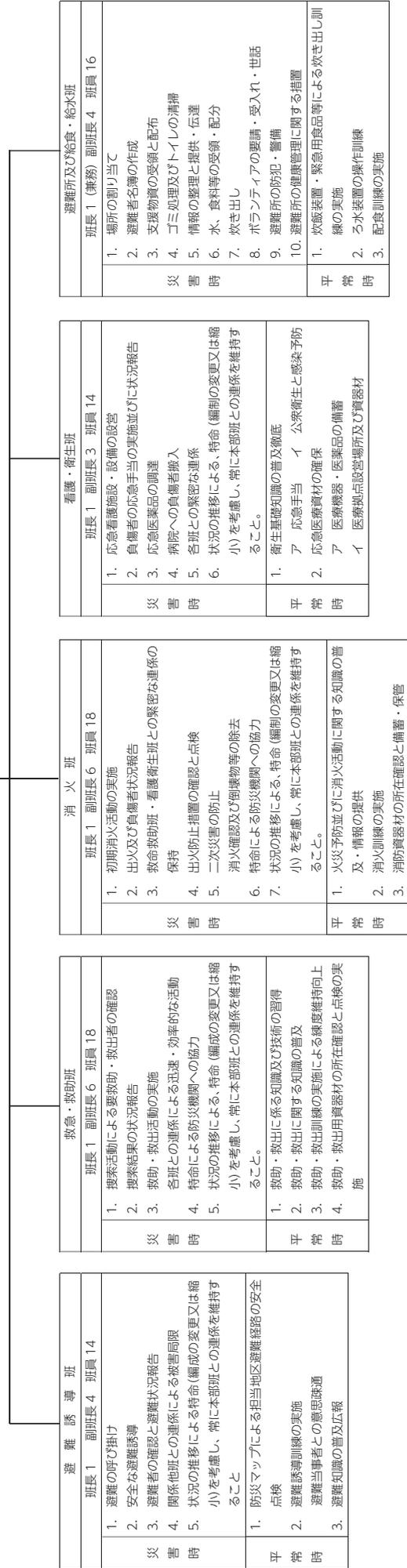
10

11

上河戸若葉自主防災会組織図(旧)

災害対策本部	
本部 長	x1
副本部 長	x4
災害時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害呼集の発令 2. 行政災害対策本部からの情報収集 3. 行政災害対策本部との業務調整 (救急対策・被害局限・復旧対策・安全対策等に対する支援要求) 4. 各班の業務指導・監督
平時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員会議の招集 2. 各種訓練計画の承認並びに訓練の指導監督 3. 防災予算の確保と防災資機材の取得

本部 班	
班長 1 副班長 5 班員 10	
災害時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の収集・伝達・広報の実施 (被害情報・負傷者情報・出火情報等) 2. 各班の業務統制並びに指導 3. 各班との業務調整 4. 編成の変更又は縮小に関する事務処理の実施 5. その他、他班業務に属さない業務の処理 6. 本部長指示の具現徹底
平時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員会議の事務手続き実施 2. 全体訓練計画の立案・実施 3. 自主防災組織活動諸資料の作成・整備 (防災マップ・人員・建物基本台帳等) 4. 防災資料の取得及び運用 5. 各班所要資器材等の調達・備蓄計画 6. 食料調達計画・輸送計画 7. ボランティア要請・受入計画 8. 避難所運営に係る計画 9. 訓練の実施 10. 災害全般に係る基礎知識等の収集と普及



上河戸若葉自主防災会組織図(新)

【平常時】

副本部長 本部部長 自主防災活動統括	副本部長 副本部長
本部委員 会議・訓練企画立案 資機材調達・点検 防災知識・火災予防等の普及広報活動 要支援者の把握と対応の検討 その他	運営委員 各種会議の参加運営 自主防災活動の参加運営 各種地域普及活動の参加運営 その他

【災害発生時】

段階① 初期活動・安否確認

副本部長 指揮調整	副本部長 防炎関係機関への報告
要支援者避難支援 安否確認 避難の呼び掛け 安全な避難誘導	消火・救出・救助 初期消火活動 救出・救助活動 重傷者の搬送 火災の警戒

段階② 全戸安否確認・避難生活支援

副本部長 指揮調整	副本部長 防炎関係機関への報告 被害・避難状況の全体把握
本部 情報作戦 避難者名簿の作成	物資管理 物資調達管理 支援物資の受領管理
安否確認 地区民の安否確認	生活吹き出し 炊き出し 避難所生活の調整
衛生・救護 防疫対策、衛生管理	衛生・救護 防疫対策、衛生管理